

留学先国名 : 韓国

留学先学校名 : 啓明大学校

留学期間 : 平成 28 年 2 月 28 日 ~ 平成 29 年 3 月 2 日

私はこのたび韓国の大邱にある啓明大学に桃山学院大学の交換留学制度を利用して長期留学をして参りました。2016年2月28日に出国し、2017年3月2日に留学先である韓国を去りました。およそ1年間大邱で滞在しました。

高校3年生のときから勉強していた韓国語の実力をもっと伸ばしたいという意欲と、韓国という国に実際に住んでみて韓国の文化や生活スタイルに触れてみることに、韓国人との交流の機会をより多く持ちたかったということが、私が長期留学を志望した動機です。大学生活の中で、必ず韓国への長期留学をしたいという強い気持ちがあり、このたび交換留学生として留学できたこと、及びおおさかグローバル奨学金の奨学生として選んでいただいたことに大変嬉しく思っております。

留学中、私は語学堂には通わずに、現地の学生たちとともに大学の授業に参加しました。主に日本学科や日本文学科の講義を聞きましたが、日本文化や歴史などを教授による講義形式または学生たちによる発表で授業が行われました。私自身も何度か発表をしました。つたない韓国語でも一生懸命練習してプレゼンテーションを行いました。日本学科・日本文学科の授業は、日本人である私でも知らない日本文化に関する情報が多く含まれており、大変興味深い内容でした。ほかにも韓国語の授業もいくつか受けました。レベル別にクラス分けされており、自分のレベルにあったクラスで韓国語を学ぶことができました。韓国語の授業では、いろいろな国の学生たちと交流する機会があり、文化交流を活発に行いました。留学はじめは、授業についていけるか、内容が難しくないか、などの不安がとても大きかったです。実際に3月のころはまだ慣れておらず、教授が話す内容と速度が私の語学レベルでは不足しており、授業についていくことが難しかったですが、友達に助けをもらいながらも徐々に授業についていけるようになりました。また、啓明大学の先生方がわからないところは尋ねれば、丁寧に教えてくださいました。啓明大学の授業は1コマ75分で構成されており、日本の大学よりも授業時間は短いです。

大学生活以外では、韓国人及び日本人の友達と大学周辺でご飯を食べたり、週末には市内に出かけてショッピングや観光をして過ごしました。夏休みの間も帰国せずに大学寮で過ごしていました。

私は、留学に行く前から簡単な日常会話程度の韓国語はできたこともあって、韓国に行ってから特に不便なことはありませんでした。文化の違いを感じながら楽しく生活しました。

前にも述べた通り、留学前から少しの韓国語は可能でしたが、留学を終えてから私の韓国語の能力が伸びたのは自身でもはっきりと自覚できるほどです。韓国語の表現であったり単語及び語彙力がより豊かになり、特に問題なく韓国語で会話もスムーズにできるようになりました。実際に生活の中で使われる会話表現や、日常生活に必要な単語などは、特に留學生活の中で多く学びました。留學中も韓国語の勉強を怠らずに継続していたことも語学能力が向上した大きな理由のひとつだったと思います。

1年間の長期留学を通して、韓国と日本を比較して感じ取ることも多く、楽しいことばかりではありませんでした。文化の違いや言語の壁などから理解するのに苦労することも多くありました。しかし、そういったことから精神的な面で、大きく成長したところもありました。韓国は、日本から近いということもあり、家族や日本の友達にも滞在中に会うことができ一緒に観光なども出来てよかったです。私は4年生の1年間留学をしました。その代わりに4年生の時に就職活動をする事ができませんでした。しかし、まったく後悔はしておらず、留学中に現地で経験したことや学んだことを生かして、これから就職活動に励みたいと思っております。将来、日本と韓国の架け橋になれるような仕事に携わりたいと考えています。留学が終わったからといって、韓国および韓国語への関心や勉強意欲がなくなったわけではなく、むしろ今後よりいっそう一生懸命文化理解や言語能力向上を目指したいです。

今後、韓国に留学に行かれる方々に私からできるアドバイスとしては、最初は、語学レベルが不足して困ることも少なくないかもしれませんが、生活しているうちに語学力も向上していくことが感じられると思います。現地で知らないことも多くあって戸惑うこともあるかと思います。しかし、どんなことでも一人で悩まずに友達に相談したり、韓国語の能力が不足してうまく伝えられなくてもあきらめずに、自分から積極的に行動してみてください。授業もただただ聞いているだけではなく、理解ができなかったことなども授業後先生に尋ねてみてください。そうしている間に韓国語の能力も伸びてすぐに適応していくと思います。また、日本と違うからといって消極的にならずに、広い視野を持って異なる国の文化を理解して楽しむといいと思います。